

最先端観光コンテンツ インキュベーター事業  
ビーチの観光資源としての活性化に関する協議会 第2回 議事要旨

- 日時： 2019年1月31日（木）16:30～18:30
- 場所： リファレンス新東京ビル貸会議室（新東京ビルB1F）
- 出席者： 別紙「出席者名簿」のとおり
- 議題：
1. 開会
  2. 議事
    - (1) 協議会の概要について
    - (2) 各種関連する会議の報告
    - (3) モデル事業の結果報告
    - (4) 調査事業の結果報告
    - (5) ガイドライン（ナレッジ集）案の説明と意見交換
  3. 閉会

概要：

開会の挨拶後、事務局より議事 1)協議会の概要、2)各種関連する会議の報告、3)モデル事業の結果報告、4)調査事業の結果報告、及び5)ガイドライン（ナレッジ集）案について説明し、議論を行った。以下、その要約。

## 1. 各種関連する会議の報告

### (1) 推進会議

#### ① web アンケート

- 20の国籍・地域の外国人を対象としたwebアンケートの結果から、ビーチコンテンツに関する外国人の意識や特徴を把握しており、調査の取りまとめにも反映している。（事務局）

### (2) 技術検討WG（国土交通省水管理・国土保全局海岸室）

#### ① WGにおける検討の観点

- 技術検討WGでは自然・地形条件、社会条件、法制度の3つの観点から検討を行った。

#### ② 提言内容に関する報告

- 我が国の砂浜について、類型化して分析することが必要であり、その一例として「都市近郊型」、「地域密着型」、「複合リゾート施設型」の3つに類型化した。ビーチリゾート創出のための「考えるヒント」を整理することが必要である。
- 活性化に成功しているビーチは、アクティビティを積極的に取り入れているという傾向を把握しており、今後の示唆になりうる。
- 津波避難施設等、防災施設を整備する際に、平常時における観光利用の観点も検討することが重要である。
- 占用期間の延長等を柔軟に検討していくことが必要である一方、過度な利用を防ぐ観点から、市町村等の関与により公衆の適正な利用と商業利用の両立を図っていくことが重要である。
- 法律上、海岸管理を都道府県が市町村に委譲することが可能なため、委譲を行いきめ細やかな対応につなげることも考えられる。沖縄県恩納村では、村がホテル事業者と連携して、常にきれいな海岸を保ちながら、利用の促進につなげている。
- 自治体、住民、民間事業者等が一体となった取組を行える環境整備の観点から、相談窓口の設置等の必要について提言している。

## 2. モデル事業の結果報告

### ① ビーチ活用のモデルとしての展開可能性

- オフシーズンの活用は、ワールドビーチゲームズのようなスポーツ利用が適していると考える。
- 年間約 100 件リゾートウェディングを行っているホテルの例では、高台に立地し、海が見える環境でのウェディングに価値を感じる顧客の利用につながっている。必ずしも海に入る、または海に面していることは必須ではなく、借景としての活用の可能性は十分考えられる。
- 栈橋の上にチャペルが整備されている地域の例では、まさにリゾートウェディングに適したロケーションであり、クルーズ船で訪れた外国人が立ち寄るスポットとしても定着している。写真を撮るだけで終わる面はあるが、このような海に近いチャペル等の構造物は、地域のシンボリックな施設になりうる。

## ② 観光消費の拡大

- リゾートウェディングが単価アップや消費拡大にどの程度つながるのかという点に関し、得られた示唆を教えてください。
  - 砂浜単独での収益化は難しいとの認識を持っている。一方、砂浜周辺の施設での飲食や、ウェディング後のアクティビティ、体験等の充実により、単価アップ、消費拡大につなげていけるのではないかと示唆を得ている。(事務局)

## ③ ターゲット

- 中国と台湾は混同されがちだが、沖縄の訪日外国人は台湾が最多である。台湾のビーチリゾートは景観が崩れ始め、日本に活路を見出していること、また接客が好評であることがその主な理由である。その点では、中国だけでなく、台湾へのプロモーションにも注力したほうが良いのではないか。
- リゾートウェディングは FIT が多いが、台湾の FIT に対するプロモーションチャンネルは大きく 2 つある。一つは Youtuber 等のインフルエンサー、もう一つはトラベルバーという口コミサイトである。このように国籍・地域だけでなく、属性や地域、年代等のセグメントにより特徴は異なるため、プロモーションを行う上では、より詳細なターゲット設定が重要である。

## ④ 日本のリゾートウェディングの訴求ポイント

- 過去、日本人の海外挙式がブームだった頃は、パリ、ロサンゼルス、ニューヨーク等、海外の特徴ある地域に魅力を感じて場所を決めていた。日本で今後リゾートウェディングによる誘客を図る上で、何を魅力として訴求していくかを明確にすることが重要である。その際は、海外でもできることではなく、日本のオリジナリティを追求することが必要と考える。

### 3. 調査事業の結果報告

#### ① 経済規模

- 継続的な事業展開の観点からは、ビーチを活用した場合の経済規模、具体的にはビーチ周辺のホテルやレストラン等の利用者数、単価、収益、費用等に関する情報も含まれていると、より有益な調査結果となるのではないか。
  - 定量的には把握していないが、海外の観光局等の話では、ビーチ単独ではないものの、バルセロナではその周辺を含む地域全体の観光消費等について目標数値の設定を行っているという事例があり、我が国の参考になりうる。(事務局)

#### ② 法規制

- 資料4の33ページにある国内外の比較の「③継続的な維持管理の実現」の2点目の記載は、誰が何をするのが整理されておらず、国内外で異なることを比較しているように感じる。この点はより丁寧に記載するように検討いただきたい。(国土交通省水管理・国土保全局海岸室)
- 日本の砂浜における仮設テント、スタジアム等の設置基準はあいまいで、最後は自治体の首長の判断となる。その点では、地域ぐるみの取組が重要である。
  - 占用は県または市町村、海水浴場設置基準は市町村が所管していることが多い。所管が異なるため、基準も一律ではない。その理由としては、河川は川上から川下まで水を流さなければいけないことが明確なので国の関与も大きい。海岸は場所により状況が様々であり、自治体に裁量を持たせる必要があるためである。加えて、海の家などは歴史的に複雑な経緯がある中でルールが決められてきて部分があり、ドラスティックに変えることは難しいという面がある。とはいえ、様々な意見を受け、今回の提言では、防災面をクリアした上で占用期間を延ばす、様々な建物を認めるなど、「柔軟に検討していくことが必要」と、これまでよりも一歩踏み込んだ方向性を示している。(国土交通省水管理・国土保全局海岸室)
    - 海の家のようなものではなく、地域ぐるみで一緒に夢を見るような大きな取組を進めるほうが、ビーチ活用の現状を打破できるのではないか。
- 海の家について、クラブ化等の利用マナーの問題は世代間の認識ギャップも一因と感じている。そうした現状を踏まえ、規制をつくることを推奨するのか、逆に自由競争を促すのかなど、一定の方向性を国から示せるとよい。

- 後背地に人が住んでいるからこそ地域で考えることの意味がある。海の家については、長年の経緯を踏まえた結果、現在の秩序が保たれているという面への配慮が必要ではないか。(国土交通省水管理・国土保全局海岸室)
  - 長年の秩序を壊そうという意図はないが、経済循環とのバランスが重要ではないか。今回の提言を機に、少しずつ循環が進むようなトレンドをつくっていけると良いのではないか。
  - 地域の理解や利用者のマナー向上に伴い、少しずつ着実に進んでいくと良いのではないか。(国土交通省水管理・国土保全局海岸室)
- ③ アクセス
- アクセシビリティは重要である。ニースからモナコへは安価でヘリコプターを利用でき、便利で楽しい。米国では空飛ぶタクシーの話も出てきている。ビーチリゾートは非日常感が重要な要素なので、こうしたアクセス面の検討が必要である。あわせて、Wi-Fi 環境の整備も重要である。
- ④ MICE 利用
- MICE は業界ごとに開催時期や場所が決まっているため、MICE にもオフシーズンは存在する。ニースでは、魚介類等の食の魅力がオフシーズンの誘客要因になっている。日本でもこのような観点が必要である。
- ⑤ 長期滞在の促進
- 海外（コートダジュール）のように、ビーチリゾートが連坦しているような地域は、各ビーチ間でゆるやかな役割分担がなされており、魅力を形成している。日本でも小規模ながらそのような地域が生まれると良い。加えて、長期滞在の場合、海だけでは飽きるのも、後背地の山の魅力も重要である。海外では、海と山を交互に楽しめる仕組みが長期滞在につながっているケースがある。日本でも長期滞在を想定した地域の魅力をつくっていけると良い。

#### 4. ガイドライン（ナレッジ集）案の説明と意見交換

- ① 本日欠席の委員のコメント
- 本日欠席の下地委員からは、取りまとめ結果をどのように活用するかが重要であり、その際には地域性の差や、時間軸を踏まえた活用を検討すると良いのではないかと意見をいただいている。また今後、この資料をどのように活用していくかも重要との意見もいただいている。(事務局)
- ② メッセージ性
- 冒頭に国、観光庁としての強い意志を明確に示すべきではないか。ビーチ活用に取り組む意義を主張すべきである。

### ③ 目的

- ナレッジ集は手引書ではないと理解している。利用者が段階的に踏むべき細かな手順には立ち入らないという趣旨でつくられているのではないか。ファイナンス、お金の話に触れられていないのも、そのことが理由と考えている。
- 読み手の目線に立って作成できるとよい。ーアイデアとして、第 2 章では、ビーチの活用にあたって今まさに直面している課題と、それに対しての解決策をナレッジとして示せると良いのではないか。加えて、例えばユニークベニューとしてのビーチの活用可能性等、世界ではこういう活用の仕方もあるということが示せるとなお良い。総じて、自治体の前向きな思いに応えるようなものにしていただきたい。
- 民間事業者の視点からは、市場規模と参入障壁に関する情報があると良い。市場規模が大きく参入障壁が低ければ、参入したいと思える。例えば国内で外国人が多く訪れているビーチはどこか、集客はどれくらいか、積極的に受け入れたいと考えている自治体はどこかといった情報である。今回、すべてを含めることは難しいと思うが、ナレッジ集を見た事業者の間でそのような話題が盛り上がり、参入を促す機運が高まるような内容になれば良い。
- 自治体・観光協会向けとしては、このビーチの運営体制は良いというようなことを紹介できると、視察等につながり、機運の醸成に有益である。その際の注意点として、ある事例のすべてを優良事例として取り上げるのではなく、この事例のこの部分が優良である、というような紹介の仕方をしていただきたい。そうしないと、良くない面まで取り入れようとしてしまうおそれがある。
- 地域の方は、地元のビーチのアピールポイントを把握できていないことが多い。海外事例も踏まえた上で、例えばアクティビティ、癒し、ヘルス等の項目を挙げた上で、どういった活用に向いているかという青写真を描くための導きを示せると良い。
- オールシーズンというワードはどこかに入れておいたほうが良い。通年での活用というコンセプトをさらに打ち出すと受け手の印象も変わるのではないか。

### ④ 構成・内容

- 5 ページのビーチコンテンツの説明にある「スポーツイベント」は、「ビーチスポーツ」としたほうが良い。写真も、ビーチバレーのようなビーチならではのスポーツの写真を使っていただきたい。
- 7、8 ページは、ビーチの活用が魅力的ということを示すには不十分であ

る。見せ方の工夫が必要である。

- 11、12 ページは論点が整理されている一方、抽象的であり、現場目線で有益かどうかは疑問である。
- 13、14 ページは分かりやすく整理されているが、参入を検討する事業者を念頭に、どのような許認可が必要で、どこに相談に行けばよく、どれくらいの期間が必要なのかということ、また、そのケーススタディ等を盛り込めると良いのではないか。
- 最終章がモデル事業となっているが、参考資料で良いのではないか。

#### ⑤ 今後の活用

- ナレッジ集は一度作って終わりではなく、自治体等の利用者との対話を通じて随時アップデートを行っていくと良いのではないか。
- どう浸透させるかという次のアクションの方向性を示す必要がある。来年度、どのように周知・活用し、成果につなげていくのかという全体像が求められる。

## 5. その他

### (1) 今後の事業の方向性

#### ① 報告

- 今年度中にナレッジ集を取りまとめ、周知する。(事務局)
- 来年度は、今年度の調査により把握したビーチ活性化のキーポイントを念頭に置き、今年度の取組を発展させた形で新たにモデル事業を展開したいと考えている。(事務局)

#### ② 意見

- 本日欠席の下地委員からは、規制緩和に向けた取組の必要性、漂着ごみの対策が不十分であるなど利活用以前の状況にある離島等のビーチへの対応の必要性についての指摘、また、調査記録として動画データを活用すると有益であるとの意見を頂戴している。(事務局)
- 面的な整備や後背地の活用等は、一年でできるものではない。Do を拙速に進めるのではなく、準備段階、Plan に2、3年かけても良いので、しっかりと進めていただきたい。
- 協議会の各委員はそれぞれバックグラウンドを持っているので、今後の実証に直接的にかかわる機会があると、より意義があるものになるのではないか。

以上